

1. 研究課題名：

新規 POPs を含有する廃棄物の環境上適正な管理に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

梶原 夏子（国立研究開発法人国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度

4. 研究の趣旨・概要

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 (POPs 条約) は 12 物質を対象に 2004 年に発効し、その後、臭素系難燃剤などが新たに条約対象に追加されてきた。これら新規 POPs を含有する廃棄物の適正処理については国内外でガイドライン策定などを進めているものの、製品中含有量や分別可否、排出実態等について科学的知見が不足しているため、現在でも処理方策が明確化されていない。

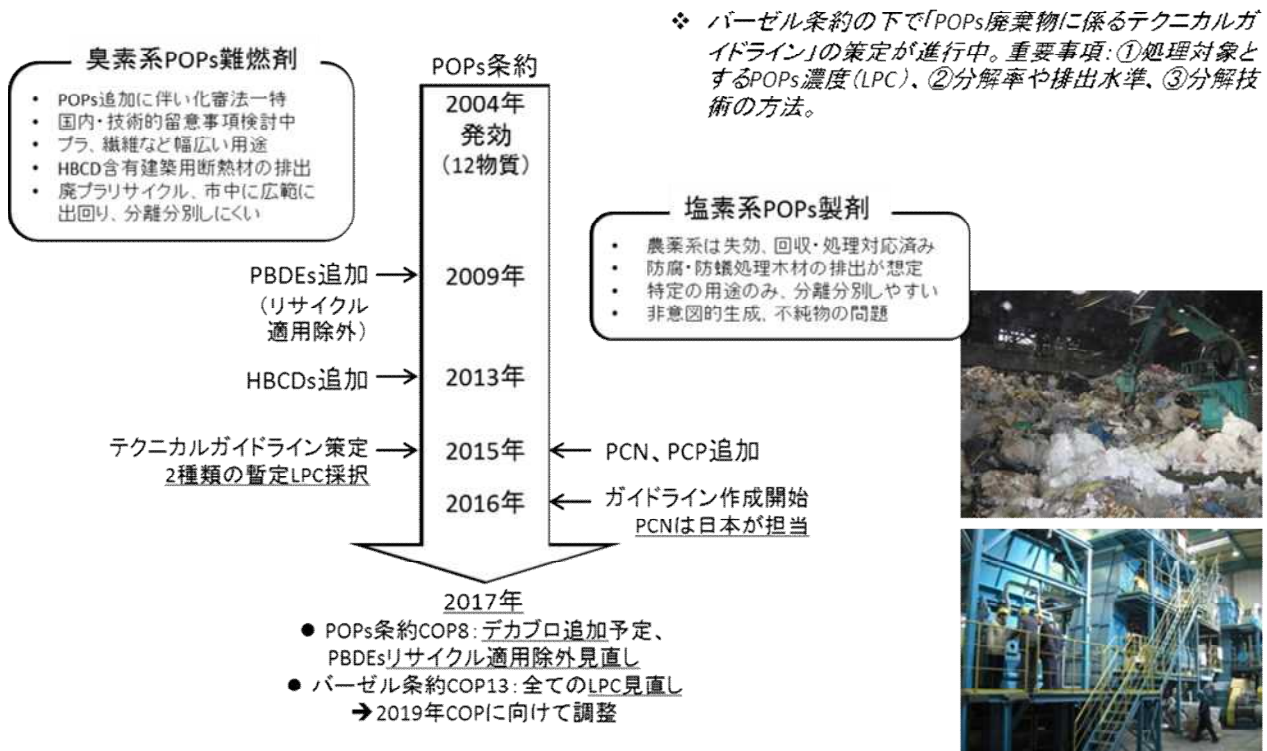
本研究では、製品・廃棄物中 POPs 含有量調査を進めるとともに、使用済み製品の処理・資源化過程での分解や環境中への放出に関する実態を明らかにする。さらに、ハザード検出や予測モデル研究と絡め、環境上適正な処理方策の検討に資する基礎情報を提示する。

5. 研究項目及び実施体制

- (1) 循環過程における臭素系難燃剤の動態評価研究 (国立研究開発法人国立環境研究所)
- (2) 循環過程における塩素系製剤の動態評価研究 (国立研究開発法人国立環境研究所、国立大学法人佐賀大学)

6. 研究のイメージ

新規POPsを含有する廃棄物の環境上適正な管理に関する研究 (3K163005)



【研究の背景】

新規物質が相次いでPOPsに追加され、含有廃棄物の処理方策の策定が急務。しかしながら、製品ライフサイクル静脈側での国内実測データが不足。

【研究の目的】

製品・廃棄物中の**POPs含有量の実測データ**を集積するとともに、使用済み製品の処理・資源化過程におけるPOPsの分解や環境放出に関する**実態調査・リスク評価・予測モデル開発**に取り組み、新規POPs含有廃棄物の適正処理方策の検討に資するデータを提示

サブテーマ(1) 循環過程における臭素系難燃剤 (PBDEs、HBCDs) の動態評価研究

サブテーマ(2) 循環過程における塩素系製剤 (PCN、PCP) の動態評価研究

製品中含有量

循環利用の実態

施設調査

予測ツール開発

